

6. 地域防災対策：新たな取り組みを提言！

スタンドパイプ設置普及！



スタンドパイプとホース 消火栓に差し込む



スタンドパイプとホースをつなぐ 放水開始

▲東京消防庁 HP より

スタンドパイプは、消火栓に差し込み、ホースの筒先を結合することで、毎分100リットル以上の放水ができる消火用機材で、消防車両が進入できない道路狭路地域などでは有効な消火活動ができることで地域防災の一翼を担うと注目されています。

大規模な地震が発生した際、同時多発的に各地で火災が起きる可能性があり、消防がすぐに駆け付けることができない場合、地域住民が協力して消火活動にあたる必要があります。火災時に、消火用機材として軽量で操作も簡単であることから、東京消防庁ではスタンドパイプの普及を進めています。

千葉県内では、自主防災組織の資機材として地域防災向上総合支援補助金、消防団の資機材として消防防災施設強化事業補助金により、財政支援の補助メニューとして市町村に支援を行っているとはいえ、その取り組みは市原市や八千代市、八街市、千葉市など限定的であることからスタンドパイプを活用した初期消火の取り組みが県内全域に広まるように今後も引き続き取り組むよう要望しました。

備考：スタンドパイプの補助実績＝県：自主防災組織の資機材として、船橋市に対して平成28年度に17台、平成29年度は20台交付決定している。

シェイクアウト訓練の推進！

シェイクアウト訓練は米国で始まった地震防災訓練で、SNSの拡散等で世界最大級の防災訓練として知られるようになり、日本では2012年から全国各地の自治体、企業、大学などが始めています。千葉県ではシェイクアウト訓練の実施を各市町村に呼び掛けており、今年度は総合防災訓練などで計60回実施し、県が主催する九都県市合同防災訓練や津波避難訓練などにおいても、開催市の住民による避難訓練の一環として、シェイクアウト訓練を実施。

しかしながら千葉県が行っているのは「防災訓練」「避難訓練」に参加している人たちの中でのシェイクアウト訓練です。大規模地震というのはいつどこで起こるか分かりません。神奈川県では「かながわシェイクアウト」として、バスケットボールのBリーグの試合

やサッカーのJリーグの試合前、高校野球の開会式前、花火大会やお祭りなど、いわゆる防災訓練に自ら参加していない方々を対象に、シェイクアウト訓練を実施するなどという取り組みをしています。

千葉県でもスポーツイベントなどを利用したシェイクアウト訓練の実施など、新たな取り組みを行うよう質問したところ、千葉県からは防災訓練のほかにもスポーツイベントなど不特定多数が集まる場で訓練をすることは大変有意義であるとし、千葉県として、各種イベントや行事にて訓練が実施されるよう、市町村や指定公共機関などに対し、様々な機会を通じて働きかけていくという前向きな答弁を得ました！

千葉県から地震体験車『まもるくん』を呼びました！

3月10日、11日にあびこショッピングプラザにて開催された『3.11 鎮魂竹宵の集い 2018』において、初めて千葉県から地震体験車「まもるくん」がやってきました。

我孫子市民団体の皆さんからご要望があり、我孫子市の全面的なご協力とご理解のもと、千葉県が所有している「まもるくん」を我孫子市に呼びました。2日間でのべ600名の市民・県民の皆さんに地震体験車を体験していただきました。

引き続き、水野ゆうきは市民・県民の防災意識の向上に全力で取り組みます。



水野ゆうきプロフィール
役職 千葉県議会議員（会派「千翔会」幹事長、総務防災常任委員会委員）
 ◎千葉県立我孫子・湖北特別支援学校後援会顧問、手賀沼水環境保全協議会顧問、一般国道356号整備促進期成同盟顧問、松戸健康福祉センター運営協議会委員等
経歴 1983年2月19日生の35歳。我孫子市生まれ・育ち・在住。我孫子市立第四小学校入学、米国ロサンゼルス現地校編入、ロサンゼルスインターナショナルスクール編入、帰国後は茨城県私立茗学学園中学校編入、同校高校卒業、津田塾大学文学部国際関係学専攻。東証一部上場物流社入社（秘書部秘書課秘書グループにて6名の役員秘書担当）。民放テレビ局勤務（報道局経済部所属・BSフジLIVE『PRIME NEWS』担当）。2011年我孫子市議会議員選挙3位当選。市議時代に我孫子市のPR、情報行政、ネット・メディア戦略に注力し、我孫子市の魅力発信に寄与。2015年千葉県議会議員選挙当選。

「我孫子ゆうき部」(水野ゆうき後援会)部員大募集！

水野ゆうきの政治活動・地域活動を支援して下さる事務員・部員を募集しております。詳しくは水野ゆうきホームページ(<http://www.mizunoyuuki.com/>)、水野ゆうきFacebookまでお気軽にご連絡ください。担当スタッフがご連絡させていただきます。

千葉県議会議員〈我孫子市選出・無所属〉会派「千翔会」幹事長

水野ゆうき

ゆうき 2018年 水野ゆうきは県政・議会・議員の見える化を推奨しています。

Can Change!

県議会・活動報告

vol.25

ブログ <http://ameblo.jp/yuukimizuno/>

Facebook 水野友貴

twitter @yuukitten



2月定例千葉県議会において、水野ゆうきは予算委員会（千葉県の平成30年度当初予算規模は1兆7,288億81百万円）の委員として登壇し、行政と徹底的に計45問の質疑を行いました。

1. 手賀沼の環境保全

水質改善、特定外来生物の適切な対応に向けて 行政と住民等で情報共有の徹底を！

手賀沼の水質汚濁のメカニズム解明に向け予算計上！

手賀沼は手賀沼流域の宅地開発が急速に進んだことにより人口が急増し、沼には大量の生活排水が流れ込んだことで、COD（化学的酸素要求量：代表的な水質の指標の一つ）の悪化が進み、結果、夏にはアオコが異常発生し、沼に生息する魚や水生植物にも影響しましたが、北千葉導水事業による排水規制を強化したことにより、水質は大幅に改善をされたものの、環境基準の5mg/Lを未だ達成していない状況です。

水野ゆうきの質問 COD、全窒素、全りんの年平均値は10年前とほぼ変わっていない。手賀沼の水環境課題に対し、課題の認識と今後の取り組みは。

千葉県の答弁 水質は環境基準を超過しており横ばいの状況であると認識。平成30年度当初予算案で水質汚濁メカニズム解明のために必要な調査等の予算を計上。

※9,000千円（印旛沼・手賀沼対象）：水質汚濁メカニズムの解明には水質予測シミュレーションの精度向上が不可欠であることから、平成30年度はシミュレーションに必要な既往調査データや文献等の収集・整理、流量・水質などの基礎調査を行うこととしている。

特定外来生物：ナガエツルノゲイトウ、オオバナミズキンバイの対応

手賀沼流域ではナガエツルノゲイトウ、アレチウリ、オオバナミズキンバイなどの特定外来生物が確認されています。千葉県では、河川管理上の支障が生じているものは県が駆除を実施しているほか、水辺環境の保全のため、市民団体と関係機関等が協働により駆除を実施。また、県及び市民団体等において、水生植物の繁茂状況の調査を実施しています。

《手賀沼の水質と発生源別汚濁負荷量の経年変化について》

項目	年度	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	環境基準
		COD	75%値	9.6	9.7	9.1	10	9.6	10	11	10	8.4	
	年平均値	7.9	8.4	8.2	8.6	8.9	9.3	9.6	9.5	7.6	8.1	8.6	-
全窒素(年平均値)		2.9	2.5	2.6	2.4	2.5	2.3	2.3	2.4	2.2	2.1	2.2	1
全りん(年平均値)		0.15	0.16	0.15	0.14	0.16	0.16	0.18	0.16	0.13	0.13	0.15	0.10

下手賀沼中央の水質経年変化 (単位：mg/L)

項目	年度	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
		COD	75%値	12	9.4	11	10	11	13	12	12	10
	年平均値	10	9.0	10	9.3	9.7	11	11	11	9.7	9.5	11
全窒素(年平均値)		3.7	2.8	3.7	3.9	3.5	3.2	3.2	3.3	3.0	2.2	3.1
全りん(年平均値)		0.14	0.10	0.14	0.17	0.13	0.15	0.17	0.17	0.15	0.14	0.16

水野ゆうきの要望 手賀沼が抱える課題に対処するためには、地域住民、NPO、事業者及び行政が問題意識と情報を共有し、各種施策をそれぞれが連携をして、長期的な視野のもと総合的、計画的に推進するように要望する。

水野ゆうきの要望と主張 オオバナミズキンバイは手賀沼で昨年初めて見つかри、環境保護団体のメンバーや県・市の職員らも参加し水際の除去作業を進めた。オオバナミズキンバイは琵琶湖で2009年度に初確認されて以降、爆発的に増殖し、滋賀県は2016年度、駆除に3億3千万円を投じるなどしており、手賀沼に関しても早めの対応が肝要である。

手賀沼流域における植物について環境に応じて適切に対応すべき。

2. 東京オリンピック・パラリンピック

学校現場や商業施設で 千葉県開催8競技の周知・普及に向け大きく前進！



千葉県、日本フェンシング協会と連携した学校訪問に手応え！ オリンピック・パラリンピック教育推進校の拡大へ！

昨年、森田知事と日本フェンシング協会の太田雄貴会長の会談により実現したフェンシングの学校訪問。子供たちにフェンシングの魅力や競技の見どころを伝え、競技に対する理解を深めることを目的としています。来年度は全県に展開し、多くの子供たちが競技に親しむ機会を提供していくという答弁を得ました！
また、29年度に指定されたオリンピック・パラリンピック教育推進校30校を30年度はさらに拡大していくという答弁を得ることができ、水野ゆうきが掲げているスポーツ政策は確実に前進しています。水野ゆうきは日本でオリンピック・パラリンピックが行われる時代に生きている児童生徒の一人でも多くにオリンピック・パラリンピック教育に触れてもらいたいと考えています。

▲森田知事、太田雄貴日本フェンシング協会会長（北京五輪個人、ロンドン五輪団体銀メダリスト）、水野ゆうき

東京2020への機運醸成に向けた情報発信事業を展開！

千葉県は東京オリンピック・パラリンピックに向けて、県民の大会への関心を高めるため、県内オリパラ関連情報発信を集中的に行うとともに SNS を活用した県民等からの情報発信を行います。水野ゆうきは事業内容の充実について詳細に質疑（予算額：30,000千円）。

オリンピック・パラリンピック関連番組放送（24,236千円）

千葉県内開催競技のルールや見どころ紹介、県内市町村の事前キャンプ誘致・受け入れに向けた取り組み、県民のおもてなし活動をテレビ番組で放送。
・年間24本（再放送含めて年間48回）、週1回（5分間）
・映像を編集して国内外向けの動画配信等で活用

水野ゆうきの要望 テレビの影響力は大きいとはいえ、局や番組、時間帯によってその視聴率は様々であるため、多くの県民が見る放送時間帯の折衝を要望。

（仮称）千葉の魅力発信隊事業（5,764千円）

県民等が体験した様々な「千葉の魅力」を全国に発信していく「発信隊」を結成し、「隊員」は千葉県が立ち上げる Facebook に食べ物や観光スポットを投稿し、閲覧者の具体的な行動を誘発し、年度末に「いいね！」獲得上位者を表彰する。

水野ゆうきが指摘している要点

★ 発信隊の募集方法としては県HP等の活用で大会までに300名の発信隊を目指すとのことだが、県開催の研修会に来た人全員を発信隊にすることは危険であり、不適切な発言を行う人を選定しないように気を付けるべき。

⇒ **千葉県**：発信隊への参加申請に対し、申請者の過去の投稿内容を確認の上、承認するようなシステムを考えている。また、投稿の際に順守してもらうルール等を記した利用規約を整備し、承認前に周知を図る。

★ 投稿内容だけではなく、複数のアカウントを所持している場合等もあるため、アカウント自体も確認するよう要望する。また、隊員の Facebook への投稿内容が、ほかのSNSツールにも同時投稿できるよう幅広く伝わる仕組みが必要である。

⇒ **千葉県**：県が開設するフェイスブックに投稿した内容については、投稿者個人が設けているフェイスブックのページにも反映される仕組みを想定。投稿者がフェイスブック以外のSNSも利用している場合はSNSへのリンクも可能であり、幅広い情報拡散を図っていききたい。



3. 手賀沼終末処理場の臭気対策を進める！

手賀沼終末処理場は手賀沼の浄化対策として昭和56年に稼働し、現在7市の汚水を処理していますが、終末処理場の臭気対策に係る要望書が地域住民から提出されるなど、効果的かつ早急な臭気対策が求められています。

臭気対策は、処理場周辺の住宅の近接状況や敷地境界における臭気測定（これまで臭気が大きくなる夏季に年1回臭気計測）の結果を踏まえ処理水量の増加に合わせ実施しており、流入施設や汚泥処理施設への脱臭設備の設置が完了し、水処理施設については、汚れが多い最上流側への蓋と脱臭設備の設置が完了。平成28年度

には水処理施設の最上流部にある最初沈殿池の上流側の池への蓋と脱臭設備の設置が完了。平成29年度は効果検証のため頻度を増して計測。平成30年度に最初沈殿池の残る池への蓋と脱臭設備の設置に着手し、早期に必要な整備が完了するよう努めていくという答弁が得られました。

水野ゆうきの要望 頻度を増やして計測をし、データの公開も進めてほしい。水処理施設においては最初沈殿池の残り3分の2の池への蓋と脱臭設備が未完了であることから早期に対応するよう求める。

4. 女性の妊娠・出産支援体制の充実へ！

千葉県の平成28年平均初婚年齢は男性が31.4歳（平成23年は31歳）、女性が29.6歳（平成23年は29.1歳）で、第1子出産時の女性の平均年齢は平成28年30.9歳（平成23年は30.4歳）であり、5年前の平成23年と比べると高くなっています。

また千葉県では、高額な体外受精などの不妊治療費の一部を助成する「**千葉県特定不妊治療費助成事業**」を実施しており、その実績は、平成28年度実件数で**2,422件**（5年前の平成23年度実件数1,808件から34%増加）と、近年女性の社会進出や社会的地位の向上及び価値観や働き方の多様化などを背景に本県においても晩婚化、未婚化、および高齢出産が進んでいます。

★特定不妊治療に関する国の制度改正に伴い助成回数と内容が変更★

- ⇒ 男性不妊治療を行った場合は、1回の治療につき15万円まで助成（初回治療に限り30万円までに拡充）
- ⇒ 平成28年度からは妻の年齢が40歳未満で新規に助成を受ける方は通算6回まで、43歳未満で新規に助成を受ける方は通算3回まで。
- ⇒ 43歳以上の方は新規での助成対象外（これまでは年齢制限なし）



本人の身体的・精神的負担の軽減やより安心して安全な妊娠・出産とするためには若いときから、年齢と妊娠・出産のリスクなどについて正しい知識を身に付ける働きかけも重要になってきています。教育段階で年齢と妊娠・出産のリスクなどについて正しい知識を身に付ける取り組みと働きかけを要望しました。

妊娠SOS相談事業（4,000千円）

予期しない妊娠など、様々な事情から妊娠出産に不安や悩みを抱える女性からのSOSに対し助産士や看護師が対応する電話（週5日夜間3時間）、メール（24時間365日受付）を活用した環境を整備し、相談から適切な支援機関につなげる新規事業が展開されます。

水野ゆうきの要望 「予期しない妊娠」は学生など若年層が多い。困っている女性たちに妊娠SOS相談の窓口を知ってもらうことが重要であり、薬局やコンビニにカード型チラシを置いたり、大学・高校や医療機関にチラシを置くことなどが、電話も3時間の対応で相談体制が充実しているかという疑問である。相談状況によって広報・周知方法及び相談体制等の見直しも行うことを要望。



水野ゆうきの質問に答弁する森田知事

5. 千葉県、乳児院の新たな展開と里親制度の推進

千葉県では平成28年度末現在で社会的養護を必要としている子供の数は、児童養護施設や乳児院に入所している児童801人、里親やファミリーホームに委託されている児童261人で、**合計1,062人**となっています。従来の施設養護では、多数の職員が多数の子どもを養護する体制であったため、子ども一人一人と職員との信頼関係・愛着関係を築くことが難しく、子どもの心のケアを十分に行えていないことが指摘されていました。

千葉県家庭の養護推進計画では、里親等による家庭の養護を推進していくことになっており、水野ゆうきは里親制度を推進しています。

千葉県乳児院の廃止に伴い、新たに民間の乳児院が新設

千葉県では平成29年5月に開所した2施設を含め7施設を所管しており、平成30年2月2日現在で定員118名のところ93名が入所。新設の乳児院は、緊急時の医療機関との連携や養育環境の

小規模化を基本的な考え方として事業者を選定したところであり、被虐待児や病虚弱児等への対応を強化するとともに、安全で安心な環境のもとで特定の職員と愛着関係を築きながら、健全な心身の発達ができるよう育ちを支えています。

里親制度の推進

里親数は5年前の平成23年度末の341組から平成28年度末までに128組増加し、469組となっています。里親制度の普及啓発についてはこれまで年1回里親大会を実施していましたが、平成29年度より広報啓発物品を作成し、それを活用した街頭キャンペーンの実施やラジオCMの放送、県内6地域における制度説明会などを実施し、千葉県に制度の理解・普及に一層力を入れてもらっています。平成29年度に新たな事業として里親の新規開拓及び地域住民における里親制度への理解を深めてもらうことを目的とした、6児童相談所管内毎の里親説明会（193名が参加）を平成30年度も引き続き実施するよう要望しました。